

安心と信頼、良質なてんかん・神経の包括医療

静岡てんかん・神経医療センター情報誌

平成28年度 秋・冬 合併号

あかり

A K A R I

看護師さんを
募集しています

今年の抱負	1
セミナーと研修	2
てんかん食ワークショップの開催	3
リハビリテーション科紹介	4

麻機遊水地フェスタに参加して	4
平成28年度「秋まつり」開催!	5
沖縄で咲いた花〜第70回国立病院機構総合医学会に参加して〜	6
第50回日本てんかん学会学術集会を行いました	6
ベストポスター賞を受賞して	8
新薬紹介 サプリル散分包500mg	8
てんかんに関する医師・看護師等研修会を開催して	9
新薬紹介 ビムパット錠50mg、100mg	9
市民公開講座を開催して	10
第3回静岡市認知症疾患医療センター市民公開講座開催	10
外来再診の診療体制/医療連携室	11
はじめて当院を受診される方へ	12
当院へのアクセス/本	12

今年の抱負

本年は、いつもと違う気持ちで新年を迎えました。今までは、「今年の抱負」うーんと考え、「これで、行こう」と気楽に考えていましたが、今年は後がない、年内に定年退職を迎えることになります。西年にちなんで「立つ鳥跡を濁さず」のことわざのごとく、当然のことながら業務は、最後まで気持ちを引き締め、短期間であっても病院目標達成に努めることを忘れてはいけません。

次に退職後の過ごし方を考えなければなりません。将来の楽しみのために「果樹苗木」を植え、数年

かかりで育てた果実を孫に食べさせる楽しみです。そのためには、自分の健康管理が重要です。まずは、「適度な運動」、今までは通勤で1時間歩いていたので、それを継続することに心掛けること。二つ目に飲酒を控えること。40年間の飲酒習慣において、「休肝日はない」考えたこともありません。「適度な飲酒」とは想像もできません。

ただ、15年ほど前に「禁煙」に成功したことがあります。1日40本も吸うヘビースモーカーでしたが、富士登山の8合目当たりで、本人は、気持ちよ

くタバコを吸ったと思ったところ、目の前は真っ暗、頭はクラクラとたいへんなことになり、友達の栄養士に相談したところ、右手を挙げブルブルさせ、口からヨダレを垂らし、下の世話は、女房にしてもらうのかと言われ、その光景を想像し、禁煙に成功しました。禁煙と同じように本気になれば「適度な飲酒」もできると思います。まずは、量を減らすことから始めようと思っています。

何はともあれ、果樹苗木は、何を植えるか考え、花が綺麗で果実が美味しい石榴、桜桃、枇杷は植えることにします。果実ができるまでに少なくとも3

年～5年にかかると思います。今から孫の成長とともに将来が楽しみです。

今年の新年で一つ年を重ね、今までの自分では、想像できなかった「健康管理」を今年の抱負としました。入院経験なかったので、健康管理とは他人事と思っていたから、自分の健康管理によりやく気が付いた今日この頃です。皆さまの「今年の抱負」は、いかがですか。

本年も皆さまが更に健康に幸せになれるよう祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

(事務部長 松永 和弘)

セミナーと研修

当院ではさまざまな研修活動を行っています。セミナーのプログラムなど当院ホームページ「セミナーと研修」で紹介しています。

てんかん看護セミナー

対象者：看護師

開催日：平成28年10月13日・14日

参加人数：35名

毎年10月頃開催しています。

臨床検査技師脳波検査セミナー

対象者：臨床検査技師

開催日：平成28年11月16日

参加人数：15名

毎年11月頃開催しています。

第3回

ふじさん・てんかん脳波ハンズオンセミナー

対象者：医師

開催日：平成28年11月26日・27日

参加人数：30名

当院は全国てんかんセンター協議会のメンバーですが、この協議会と共同して毎年秋に脳波の研修会を開催しております。

第38回てんかん専門職セミナー ～てんかんのある児童～

開催日：平成28年8月3日

参加人数：52名

てんかんのある児童に関わる特別支援学校や小・中学校の教員、保育士及び幼稚園教諭、児童施設職員等に、てんかん児に対する知識や発作を含めた対応の仕方、てんかん児を取り巻く家庭や教育場面での問題点などについて理解を深めてもらうための研修です。

看護師さんを募集しています!

①常勤職員：病棟勤務 夜勤有り

②非常勤職員（外来、通所事業、病棟）

経験の少ない方、育児等でブランクのある方でも心配はご無用です。「じっくり患者様と関わりたい」「ゆとりのある看護をしたい」とお考えの方、ぜひ当院で働いてみませんか？相談、見学等随時お受けしております。お気軽に看護部長室までご連絡ください。

TEL ● 054-245-5446

E-mail ● kango-bu@shizuokamind.org

てんかん食ワークショップの開催

診療報酬の改定により今年度から「てんかん食(ケトン食や修正アトキンス食など)」が特別食として位置づけられました。

てんかん食は糖質量を制限し脂質量を増加させる食事療法であるため、特に私たち日本人の食生活から考えると、“食べづらい”“長期継続がむずかしい”等のイメージを持たれがちです。



【写真1】

そこで、てんかん食の普及・質の向上・課題検討を目的とした「てんかん食ワークショップ」が当院にて開催されました(2016/6/12)。県内施設をはじめ、北海道や熊本県からも多くの医療従事者が参加し積極的に意見交換しました。

その中で、栄養管理室が主体となつててんかん食の調理の実演を行いました。予想を超える参加者であったため、手元をスクリーンに映して実演・説明となりました。

写真1は、①えびのロワイヤル

(洋風茶碗蒸し) ②パスタのカレーソテー ③サーモンサラダ ④デニッシュパンの4品で、1食あたり600kcal(ケトン比3:1)のケトン食です。①〜③は、一見手が込んでいそうなメニューですがどれも簡単な調理ばかりです。糖質ゼロのデニッシュパンを添えることでボリュームが出て、満足感が得られる食事となります。

調理実習に参加された方にもこのケトン食を試食していただきましたが、その多くは“普通においしい”“工夫次第で無理なく食べられる”等の好印象を持たれたようです。

低糖質や糖質ゼロの食品や様々な風味の油をスーパーなどで見かけることが多かった昨今、以前に比べるとてんかん食は内容も良くなり食べやすい食事となっています。てんかん食に少しでも興味を持たれた方は、栄養管理室まで気軽に声をおかけください。

(栄養管理室 竹浪 千景)



リハビリテーション科紹介

副作業療法士長 春名 令子

現在、理学療法士7名、作業療法士6名、言語聴覚士2名の計15名で0歳からご高齢の方まで幅広いリハビリテーションを行っています。

「最近、歩くときにつまづくようになった」「細かな動作がむづかしくなってきた」「食事の吞み込みの時にむせるようになった」「子どもがなんとなく不器用」などお困りの際には主治医にリハビリについてのご相談をされてみてはいかがでしょうか。

リハビリテーション科は正面玄関からエレベーターを横目に見ながらまっすぐ進むと右手に看板が見えます。

リハビリテーション



理学療法棟

これが見えたら右に曲がるとリハビリテーション科です

麻機遊水地フェスタに参加して

管理課長 望月 高久



平成28年10月22日(土)に「第4回 麻機遊水地フェスタ」(巴川流域麻機遊水地自然再生協議会主催)

が病院前の麻機遊水地で開催されました。

この「麻機遊水地フェスタ」は麻機遊水地第3工区において、麻機遊水地の自然環境や自然再生活動の取り組みに関するPR、協議会への参加促進を目的として開催され、今回で4回目の開催となりました。

この日は麻機遊水地を中心に、「あさはた沼フェスタ」、「静岡ヘリポート祭り」も同時に開催され、多くの方が来場されました。

「麻機遊水地フェスタ」では遊水地の特性を生かしたカヌー体験や池の宝探し、案山子コンテスト&稲刈り、草の迷路、スタンプラリー、高所作業車体験、かわいい動物たちとのふれあいなど様々な催しを実施され、参加者は遊水地の広さと豊かな自然環境を体感している様子が見られました。

当院は、2回目から参加して今回が3回目の参加になりました。

今回は例年院内で開催していた「病院フェア」を、この「麻機遊水地フェスタ」会場で開催しました。

フェアの内容としては、病院のことを知ってもらうと共に「てんかん」という病気も知ってもらうために「てんかんクイズ」を実施し、参加された方には「ヨーヨーつり&スーパーボールすくい」をしていただき、お子様を連れの家族を中心に400名程度の方が参加していただきました。

また、子どもさんを対象に白衣やナース服を着ての写真撮影、骨密度測定や栄養相談も同時に行い、大変好評でした。

今後もこのような機会を活用し、てんかんという病気を理解していただく活動を続けて行きたいと考えています。



それぞれの療法を簡単に紹介します。

理学療法(PT)

立つ、歩くなど基本的動作の訓練を中心に、車いす、装具の選定、身体機能の測定などを行っています。

作業療法(OT)

日常生活における応用動作訓練を中心に、高次脳機能障害、認知症などにもかかわっています。

言語聴覚療法(ST)

言葉の訓練、食事の際の「噛む」「飲み込む」といった動作の訓練などを行っています。個室での個別訓練を中心に、病棟に出向いての訓練も実施しています。



平成28年度「秋まつり」開催!

療育指導室
成田 史緒



重症心身障害児・者病棟では、今年度も10月18日、19日と2日間かけて「秋まつり」を開催しました。2日間共に天候に恵まれ、青空の下ウッドデッキで開催することができました。

今回のテーマは、オリンピック開催年ということもあり「わかくさ五輪～世界中を旅しよう～」です。ウッドデッキは万国旗で飾られ、各国をイメージした屋台が並びました。わかくさ学級や栄養管理室、事務部や各病棟が運営する食べ物やゲームの屋台のあちこちから、患者様やご家族の楽しそうな笑い声やかけ声が聞こえ、ウッドデッキは笑顔であふれていました。

そして、メインイベントともいえる仮装大会では、それぞれがテーマとする国をイメージした衣装を身にまとい、ウッドデッキをパレードして「秋まつり」を盛り上げました。各病棟と療育から全5グループが参加したこの大会では、いろいろな国の雰囲気を感じ



ることが出来ました。B1病棟はロシアをテーマとし、花をふんだんに貼り付けた華やかな民族衣装が印象的でした。日本をテーマとしたC1病棟からは、素敵な舞妓さんとかっこいいお侍さん、忍者がパレードして会場は和の雰囲気に包まれました。B2病棟はインドをテーマとし、サリーやターバンなどの民族衣装だけでなく、象や魔法のランプなどの小物や大きなタージマハルが登場し、注目の的でした。C2病棟はブラジルをテーマとし、羽根飾りやフェイスペイントを施した衣装でダンスを披露。にぎやかなサンバの雰囲気を感しました。オーストラリアをテーマとした療育からは、かわいいコアラとカンガルーがパレードしました。最終日にはこの仮装大会の表彰式を行い、それぞれ素敵



なタイトルの賞状を授与され、今回の「秋まつり」は終了となりました。

楽しいお祭りの雰囲気やオリンピックのにぎわいを感じることができた2日間になりました。開催にあたり参加・ご協力して頂きました皆様、ありがとうございました。



沖縄で咲いた花～第70回国立病院機構総合医学会に参加して～

療育指導室
高橋 輝

平成28年11月11日12日、第70回国立病院機構総合医学会が沖縄で開催されました。静岡を出発する朝は厳しい冷え込みになり、厚手のコート着用で家を出ましたが、沖縄に着くと夏日、Tシャツで過ごせる陽気でした。気温差20℃以上に驚きながらも第70回総合医学会の始まりました。

私の所属している療育指導室では、入院中の乳幼児さんを対象に療育指導を行っています。私達はどんなお子さんにもできるようにしたいという「芽」があり、その「芽」を見つけること。その「芽」をあら

ゆる工夫により支援していくことを心がけています。

ある日私は「芽」を見つけました。楽器の音を聞かせると表情を変え、少しだけ手を動かせるお子さんに



第50回日本てんかん学会学術集会を行いました

神経内科医長
寺田 清人



2016年10月7日～9日の3日間、東静岡のグランシップにて第50回日本てんかん学会学術集会が行われました。この学術集会は日本てんかん学会の年次集会として毎年一度開催するものですが、本年は記念すべき50回大会で、その大会長に当院の井上有史院長が指名されておりましたため、当院のスタッフが総出でこの運営にあたりました。

この学術集会は、全国からてんかんを診療している日本てんかん学会の会員(医療専門職：医師、薬剤師、看護師、技師、リハビリテーション関係職、医療相談員等)が集まり、てんかんについて学術的なそして診療に関わる発表・討議を行う場であります。今回は、全国からこれまでの学術集会で最も多

い1600名程の先生方にお集まりいただき、非常に活発な議論がなされました。ここで議論されたことは今後のてんかん診療の発展に結びつきます。

また、この学術集会の期間中、学会員以外の先生方にてんかんの理解を深めていただくための「てんかん教育入門コース」や一般市民に対する啓発活動としての市民公開講座なども開催し、多くの先生方、市民の方々にご参加いただきました。これらの活動を通し、てんかんに対する理解がより多くの人に広まることを期待しております。

さらに、今回が第50回の記念大会であることから、学術的な企画以外にも趣向を凝らした様々な企画(てんかんミュージアム、てんかんと映画、てんかんをめぐるアート展)も行ないました。てんかんミュージアムでは、これまでのてんかんの歴史を振り返る展示として、江戸時代以前の漢方薬から現在の新薬の歴史、てんかんにまつわる人物の歴史、検査の歴史などを展示しました。このミュージアムは一般には公開されませんでしたが、「これまでの多



です。現在は自分から楽器に手をのびし、楽器を鳴らせるまで成長されています。今回はそのお子さん

会ったのです。そこから私とお子さんの取り組みが始まりました。一緒に鳴らしたり、あらゆる工夫と継続した支援を続ける中で次第に手の動きが大きくなっていったの

の様子を発表させていただきました。

発表には多くの聴講者がいましたが、緊張よりもお子さんの成長を伝えられることに喜びを感じていました。ベストポスター賞を頂けたこともそうですが、発表後に多くの方から「応用してみます」「真似をしたい」と声をかけていただけたことが何よりも嬉しかったです。

今回お子さんに芽生えた「芽」は、沖縄の温かい気温もあってか、大きな花を咲かせてくれました。そしてその花の種は全国の支援者の手に渡り、またどこかで花を咲かせてくれるでしょう。



くの人々の力で現在のてんかん診療が成り立ってきたことが理解できる」と、多くの先生方に好評でありました。

てんかんと映画のブースでは、てんかンを題材として、てんかんが出てくる、てんかんに関連した映画を上映いたしました。3日間で11本の映画を上映いたしましたところ、合計で300人程の方にご鑑賞いただくことができました。

また、てんかンをめぐるアート展ではてんかんのある人やてんかんに関わる人の作品を全国から公募し、最終的に150点余の入選作を展示させていただくことができました。このアート展には900人ほどの方にご来場いただき、また入選作を載せた作品集を作成いたしました。多くの方がこの作品集を



ご購入されていきました。中にはご自身の発作の内容を作品としたものもあり、

その作品を見た他の患者様が「私も同じ感覚です」と言われたことを聞き、言葉



葉では伝えられないものも作品として伝わるということに非常に感動いたしました。これらの作品の一部は現在も当院内で展示しておりますため、来院された際にご鑑賞下さい。

このような日本てんかん学会の学術集会を開催することは、非常に労力が必要で大変なことではありますが、その中でも記念すべき第50回大会を開催することができたということは非常に名誉なことでもあります。これも日頃より当院をご支持、ご支援いただいている皆様、そして当院を信頼して通院・入院していただいている皆様のお陰と感謝しております。まだまだ先の話ではありますが、静岡で第100回大会も開催できるよう、皆様の今後のご支援をよろしくお願い申し上げます。

ベストポスター賞を受賞して

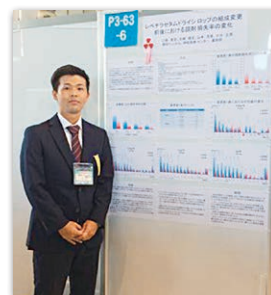
薬剤部 菅 寛史

第70回国立病院総合医学会が11月11日(金)、12日(土)に沖縄で開催され、今回私は「イーケブラ®(レベチラセタム)ドライシロップの組成変更前後における調剤損失率の変化」について発表して参りました。イーケブラ®ドライシロップは細かく用量調節が可能であることから小児に多く用いられてい



ますが、少量調剤において散剤分包機への付着性が高く損失することが知られています。当センターでは調剤損失防止および服用しやすいように乳糖の賦形を行っています。製薬会社はこの問題を改善する為、原因となる添加物を変

更したことから、組成変更前後の改善効果はどうか、またこの分包過程において改善されたのかについて結果と今後の課題をまとめ発表しました。本番では短い発表時間内に要点をまと



め分かりやすく伝えることに心掛け納得いく発表ができ、見事ベストポスター賞を頂きました。これも薬剤師2年目の私に対して最後まで熱く御指導頂いた諸先生方のおかげだと思っております。また、てんかん治療に関して中心となる当センターから情報発信できたことを誇りに思うとともに、他の施設の方と情報交換をしたり、様々な講演を聴講したりとすごく充実した2日間を送らせていただきました。今回得た経験を踏まえ、今後の薬剤業務と研究に生かしていきたいと考えております。



新薬紹介 サブリル散分包500mg

薬剤部 矢嶋 隆宏

特 徴

この薬は、小児期の稀な難治性てんかんである、点頭てんかんに用いられます。点頭てんかんには有効な治療薬が少なく、この薬が承認されたことで治療薬の選択が拡大し、治療の向上が期待されます。

この薬は、既に海外で50か国以上の国で発売されています。これまでの海外の臨床データから抗てんかん薬に多い副作用である眠気、ふらつきに加え、視野が狭く見えるなどのこの薬特有の眼障害が明らかとなっています。点頭てんかんの好発年齢が乳幼児であることからこの眼障害の発現について予見できる因子についてこれまで検討されてきました。しかし、今のところ特定には至らず、早期発見することが重要とされ眼科診療が必須となり、処方医と眼科医が連携して治療を進めていく必要があります。また、薬を調剤する薬剤師との連携も求められています。この薬は処方医、眼科医、薬剤師が薬の特徴を十分に理解しないとこの治療に係われません。つまり、すべての医師が処方できるわけではありませんし、すべての薬剤

師が調剤できるわけではありません。薬の特徴などを理解したうえで、各々の職能の視野から患者さんの情報をお互いに共有し合い、治療を支えて行くことになります。

一方、治療を受ける患者さん側のご両親も副作用を十分に理解し行動観察することで、早期発見につながると考えられます。

作 用

神経抑制伝達物質である GABA(γ-アミノ酪酸)は抗けいれん作用に重要とされますが、体内ではすべてが使われることなくGABAは分解され再利用されます。この分解を抑えることでGABAの濃度を高め抗けいれん作用を発現します。

服用方法

この薬の剤形は粉薬のみです。服用の際には、その都度、水に溶かし1日2回服用する薬です。

その他

この薬は、特徴でも紹介したとおり患者さんとの連携が今まで以上に重要となってくると考えられます。気になることがあればすぐに相談してください。

てんかんに関する医師・看護師等研修会を開催して

経営企画室長 河村 広明

日 程：平成28年11月26日(土)

場 所：アクトシティ浜松 コンgressセンター

主 催：国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター

参加者：医師、看護師、保健師、教育職27名

当センターは、平成27年11月に静岡県よりてんかん地域診療連携体制整備事業の「てんかん診療拠点機関」の指定を受けました。てんかん診療拠点機関の役割の一つに医療従事者などに対する研修会の実施があり、この都度、静岡県西部地域の浜松市で研修会を実施しました。

研修会では、冒頭、当センターの久保田英幹統括診療部長の挨拶と「てんかん地域診療連携体制整備事業」の概要説明があり、その後、池田仁神経内科医長(静岡てんかん・神経医療センター)による「目で見える成人のてんかん発作」、大星大観小児科医師(静岡てんかん・神経医療センター)による「小児の包括医療」と講演2題と質疑応答が約2時間にわ

たって行われました。研修会終了後のアンケートでは、「ビデオが参考になっ

た」、「多職種協働が必要とわかった」等ご回答頂きました。また、簡素化したガイドラインやチェックリストを提供して欲しい等のご意見も頂きました。

当センターは、静岡県のてんかん拠点機関として、てんかん診療に関する医療機関連携体制・治療体制の整備や、患者さんと家族に対する相談支援、医療関連職や福祉・教育職の為の研修事業、てんかんに関する正しい知識の普及啓発を実施しています。皆様のご参加、ご協力を宜しくお願い致します。



新薬紹介 ビムパット錠50mg、100mg



薬剤部 菅 寛史

特 徴

この薬は2016年8月末に販売開始され、今年で3種類目の新薬となります。脳神経細胞の一部が過剰に興奮して起こる部分発作や部分発作から始まり全身のけいれんへと発展する2次性全般化発作に用いられます。

これまでの抗てんかん薬とは異なる作用機序により発作を抑える薬で、治験段階において、他の抗てんかん薬で発作のコントロールが不十分な患者さんに併用投与することによって、部分発作の回数を有意に減少させました。

この薬は他の薬との飲み合わせに対する問題が少なくスムーズな導入が可能となります。また、従来の抗てんかん薬と比べて、めまい、眠気、頭痛、吐き気・嘔吐などの副作用の少ないことが特徴です。

作 用

この薬は従来のナトリウムチャンネル遮断薬より緩徐にナトリウムチャンネルを遮断することで、脳内の神経の過剰な興奮を持続的に抑えてナトリウムチャンネルの機能を安定化させ発作を抑制させます。そのため、従来

のナトリウムチャンネル遮断薬よりめまいなどの副作用が少ないといわれています。通常、他の抗てんかん薬と併用して、てんかんの部分発作の治療に用いられます。

服用方法

この薬は、薬に慣れるために少しずつ量を調整していく期間(調整期)と、症状がコントロールできたところで、量をそのまま維持して服用する期間(維持期)に分けられます。この薬の量や調整する期間は患者さんの状態によって主治医が決定しますので、ご自身の判断で薬の量を増やしたり、減らしたりせず、指示に従って決められた量を服用してください。

その他

現在、この薬は成人にしか投与は認められておりませんが将来的には、シロップ薬などの発売も構想にあることから小児への適応も増え、部分発作の第一選択薬であるテグレトールの使用が困難な患者さんにおいて、新たな治療の選択肢として期待されています。

もし気になる副作用などがみられたらご自身の判断で服用をやめないで主治医または薬剤師に相談してください。

市民公開講座を開催して

経営企画室長 河村 広明

テーマ：「てんかんを知ろう」

日 程：平成28年7月10日(日)

場 所：豊橋商工会議所 3階ホール

主 催：国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター、愛知てんかんセンター

後 援：国立病院機構豊橋医療センター

参加者：一般市民120名余り



平成28年2月28日に名古屋市内で開催した市民公開講座の第2弾として、愛知県豊橋市で市民公開講座を開催しました。

最初に兼本浩祐教授(愛知医科大学)による「おとなのてんかん」、臼井直敬医長(静岡てんかん・神経医療センター)による「てんかんの手術：術前から術後まで」、福智寿彦院長(すずかけクリニック)による「てんかんのある人の生活を支える」と講演3題と質疑応答が約2時間にわたって行われました。参加者の方は、真剣に聴講されてみえました。

その後、希望者の方に個別相談会を1時間程実施しました。個別相談会では、多くの方が希望され急遽、井上有史院長や原稔枝てんかん認定看護師もにお手伝い頂き無事終了しました。

当センターは、静岡県のとんかん診療拠点機関として、また、日本のとんかん医療の中心機関として、連携・相談・研修・啓発事業を実施しています。

引き続きこれからも、市民公開講座や出前講座、相談会等を行い、日本のとんかん医療の質の向上に貢献出来る医療機関として努めて行きたいと考えています。

第3回静岡市認知症疾患医療センター市民公開講座開催

専門職 山田 誠

平成28年10月23日(日)にグランシップにて「第3回静岡市認知症疾患医療センター市民公開講座」が行われました。今回のテーマは「認知症の最新知識」として、昨年を上回る170人以上の参加者に恵まれ、より多くの方たちにご参加いただきました。

そして、昨年度まで静岡市認知症疾患医療センターは当院のみの指定でしたが、今年度より医療法人社団リラ溝口病院も静岡市認知症疾患医療センターの指定を受けて、新しい仲間として、今回の市民公開講座は初の試みとして合同で企画して準備を整えたものであります。

そして、講義内容は、小尾センター長による①「認知症の診断と治療」、寺田溝口病院センター長による②「認知症とうつ」、岡村栄養管理室長による③「認知症と栄養」、春名副作

業療法士長による④「認知症にならないために～リハビリの視点から～」の講義4題目が約2時間半にわたり講義されました。

また、出席された皆様の市民公開講座に対するご意見ご要望としては、「一度に4つのテーマが効率良く学ぶことができました。」「テーブルがセッティングされていたので、筆記ができてよかった。」「認知症に対する接し方のアドバイスが聞きたかったです。」「もう少し時間をかけて、受ける講座を受けたい。」「認知症診断後にどうしたら良いのかという話を聞かせて頂きたいと思いました。」等、多数のご意見ご要望を頂戴いたしました。時間的制限がある中、これら、ご意見ご要望に出来るだけ答えながら、双方の病院がお互い手を携えて協力しながら市民公開講座を盛り上げていけたらと思っています。

外 来 再 診 の 診 療 体 制

てんかん科

午前の診療時間は8:30~12:00 午後の診療時間は13:00~16:30

	月	火	水	木	金
第1診察室		山 崎	中 岡	山 崎	白 井直
第2診察室	久保田英			久保田英	
第3診察室	今 井		井 上		近 藤
第4診察室		鳥 取	日 吉		日 吉
第5診察室	池 田仁	池 田浩	池 田浩	寺 田清	寺 田清
第6診察室	芳 村			芳 村	松 平
第7診察室		表			山 口
第8診察室		西 田	高 橋		
第9診察室	重 松			大 谷	大 谷

神 経 内 科

	月	火	水	木	金
第10診察室	午前 寺田達	小尾	小尾		小尾
	午後 小尾				
第11診察室	杉浦	杉浦	寺田達		馬場國 尾内(第4)

特 殊 外 来

転倒予防外来	随時	小尾
認知症疾患医療センター	月・水	寺田達・小尾
遺伝相談	随時	高橋、小尾
禁煙外来	随時	池田仁
ねむけ外来	月	寺田清
包括的てんかん外科初診外来	火	寺田清

再来診療は予約制です。予約が出来ない場合は午前中にお越しください。

医療連携室のご案内

医療機関間のコミュニケーションを円滑に行なうために、医療連携室(予約センター)を設置しています。ご利用ください。(平日)

TEL ■ 054-246-4580(初診)

054-246-1065(再診)

FAX ■ 054-246-4607

予約センターの受付時間

● 9:00 ~ 12:30 ● 13:30 ~ 17:00

E-mail ■ renkei@shizuokamind.org

当院では、脳波、筋電図、誘発電位、脳磁図、終夜ポリグラフ、CT、MRI、SPECTなどの検査が可能です。共同利用も可能です。

上記、医療連携室にお問い合わせください。

広 報 誌 編 集 委 員 会

編 集 人 ■

寺田 清人	佐藤 美喜子	坪井 千浩
矢嶋 隆宏	佐倉 裕二	傍島 隆
中村 成美	高橋 輝	春名 令子
岩田 裕貴		

発 行 ■ 平成 29 年 2 月 2 日

国立病院機構

静岡てんかん・神経医療センター

〒420-8688 静岡市葵区漆山 886

T E L ■ 054-245-5446

F A X ■ 054-247-9781

U R L ■ <http://www.shizuokamind.org>

E-mail ■ shizuoka@shizuokamind.org

はじめて当院を受診される方へ

◆診察は予約制になっています◆

1 受診のための手続きは…

予約制は、ご本人・ご家族から当院医療連携室(054-246-4580)へ、あるいは主治医の先生から当院医療連携室へ申し込んでください。その際、ご本人の氏名・性別・生年月日・住所・電話・保護者氏名をお尋ねいたします。電話をいただきますと、その場で受診日を決め、折り返し当院からかわいい書類をお送りいたします。

2 セカンドオピニオンについて

セカンドオピニオンもお引き受けいたします。

3 紹介状について

現在すでに病院へかかっておられる方は、主治医の紹介状があることが望ましいですが、なくても結構です。紹介状がない場合は別途費用(2,700円)がかかりますので、ご了解ください。病院からの資料もあれば望ましいですが、なくても結構です。

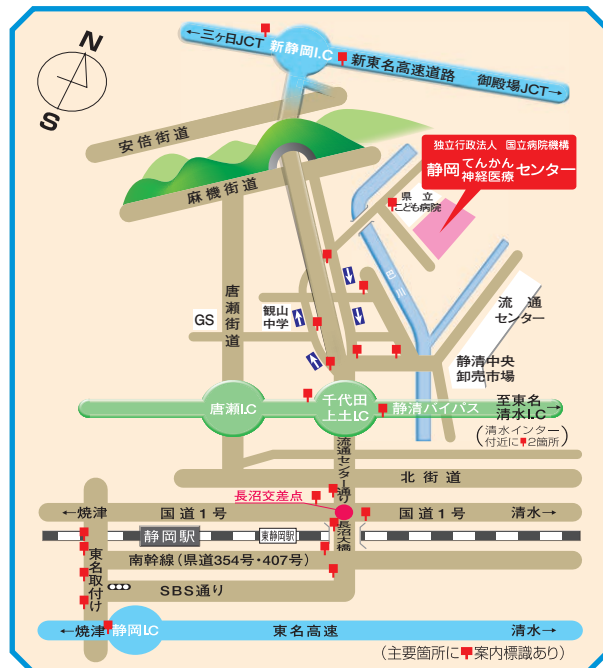
4 緊急を要する時は…

受診日は病状に応じてできるだけ対応いたしますので、緊急を要する時はその旨をご連絡ください。

当院へのアクセス

access

バスをご利用の場合	JR静岡駅前、北口バスターミナル5番線より静岡鉄道バスにて、こども病院線「67 こども病院・神経医療センター」行に乗車、終点の「静岡神経医療センター」で下車。全所要時間は約30分。片道料金は大人360円、小児180円。
タクシーをご利用の場合	JR静岡駅前(北口)より乗車。所要時間は約20分。料金は2,500円程度。
お車の場合	東京方面から - 東名高速清水インターより、静岡バイパスを静岡方面に向かい、千代田・上土出口から流通センター通りを北へ数分。所要約20分。 - 御殿場JCTで新東名高速道路へ乗換。新静岡ICより、案内板に従い直進。所要時間約7分。
	名古屋方面から - 東名高速静岡インターより、国道1号線を清水方面に向かい、長沼交差点を左折、流通センター通りを北へ数分。所要約30分。 - 新東名高速道路・新静岡ICより、案内板に従い直進。所要時間約7分。



本

BOOK

●抗てんかん薬ポケットブック(改訂第5版)

【日本てんかん協会、2014年】

禁忌、重大な副作用、重大な副作用疾患別症状、体内動態と主な副作用、相互作用、抗てんかん薬プロフィール、新規抗てんかん薬の開発状況、Q&A、識別コード(錠剤のみ)を掲載。

●稀少難治てんかん診療マニュアル

～疾患の特徴と診断のポイント～

【診断と治療社、2014年】

稀少難治てんかんの特徴と診断のポイントから、検査、治療、予後まで詳しく概要をつかめるよう約3～4ページにポイントを絞った。発作時の脳波図、発作の鑑別フローチャート、鑑別疾患を比較した表をレイアウトし、視覚的に分かりやすく稀少難治てんかんを解説した。診断、治療のマニュアルの項目の冒頭には短く「ポイント」をまとめた。稀少難治てんかんにかかわる小児科医、神経内科医、脳神経外科医などに役立つ書。

●てんかん症候群(第5版)

～乳幼児・小児・青年期のてんかん学～

【中山出版、2014年】

てんかん学の「ブルーガイド」として世界的に普及している「Epileptic Syndromes(原書第5版)」の日本語翻訳版です。4版よりも10%以上ボリュームが増え、より詳しい内容になり、他では決して得られない極めて貴重なてんかん発作の動画付き。静岡てんかん・神経医療センターのスタッフが総力をあげて翻訳しています。

●てんかん専門医ガイドブック

～てんかんにかかわる医師のための基本知識～

【診断と治療社、2014年】

てんかん専門医試験を受験する医師のみならず、てんかんにかかわるすべての医師必携のガイドブック。概念や分類、病因、診断、検査、治療などの総論から、新生児から高齢者まで各年代別の重要なてんかんや遺伝子研究結果に基づく特殊てんかんの最新知識、外科治療などを解説した各論に続き、妊娠、運転、生活支援についても具体的に紹介。臨床てんかん学の内容をコンパクトにまとめた実践的な一冊。

てんかん情報センターのご案内

てんかんに関するさまざまな情報を集積したセンターが外来棟1階にあります。どうぞご利用ください。次の活動を行っています。

- 1 てんかんに関する書籍・雑誌・ビデオなどの閲覧・貸し出し(自己学習)
- 2 ホームページによる情報提供 <http://epilepsy-info.jp/>
- 3 てんかん協会との連携
- 4 医療などの相談(予定)